

「立志式」の歴史については、担任の先生から教えてもらっていますね？

この寺井中学校では、代表生徒が「夢を語り、お互いに共感しあう時間を大切にし、勇気をあげたりもらったりすることで、なりたい大人への一步をみんなで踏み出すことができる、そのような瞬間を共有してほしいと願い、今日みなさんが自分たちの手で創り上げようとしている「立志の集い」という形式で、昨年度より実施しています。14歳の今、立ち止まりあらためて、過去を振り返り、現在を見つめ、将来を見据えて、決意や目標を明らかにし、大人になる自覚を深めた人と、それをしなかった人とでは、実際に20歳になった時の姿が違います。なぜなら、そこからの6年間の過ごし方が違うからです。加えて、みなさんは18歳で条件付きの大人になる時代を生きています。大人でもなく子どもでもない、14歳という身も心も揺れ動く人生の過渡期。将来のことを考えると不安になったり、こんな自分でも大人になれるのかな…自分はこれからどうなるんだろう…考えても考えても答えなど出なくて…不安は消えないまま…このように胸に抱える将来への不安は、誰もが多かれ少なかれ抱えていることは当然のことです。14歳のみなさんにとって、大人というのは遠い存在に見えるものです。働いて、家のこともやって、お金も持っていて、立派そうに見えるかもしれませんが、実際に自分が大人になってみるとわかります。大人ってそんなにすごくありません。立派そうに見えるけれど、大人だってわからないことだらけだし、いろいろ悩みながら生きているんです。わからないことを学び、悩みながらも決断して、少しずつ成長していく。それは子どもも大人も同じで、その経験の数が大人のほうが多いだけなのです。だからこそ、子どもの時から、何をどのように考え、どのような経験を積み重ねていくかが大切なのです。

今の時代を子どもとして生きているみなさんは、とても大変だと思います。私が子どものころと違って、みなさんが生きているのは、物事が変化するスピードがとても速くて、その都度、どうすればいいのか自分で判断する力が必要な時代です。そんな厳しい時代だからこそ、必要なことは「ヤワな大人にならない！」ということ。人生上手くいかないことのほうが多いのです。「ヤワな大人にならない！」つまり挫折や悩み、不安に振り回されず自分の力で人生を切り拓いていける強さ、しなやかさ、そして、やさしさをもった大人になるということです。

先週、北京オリンピックで起こった「スキージャンプ混合団体での出来事」は、みなさんも知っていますね。あの五輪史上最高に切なくも、最高に美しい4位を見せてくれた日本ジャンプ陣の姿に、そのすべてが凝縮していたと私は感じました。1回目、チームが勢いづく渾身のジャンプからのまさかの失格。声をあげて号泣するほどの憔悴と絶望の淵からも、わずか50分後の2回目に向け「最後まで飛びます」と自ら決意し、涙のラストジャンプを決めた高梨沙羅選手。その気高さと精神力は、本当に人として尊敬に値する姿だったと思います。また、そんなふうに、周囲からはとてもジャンプを飛べるような状態ではなかったと、怪我のリスクも考えられるような状況の中、自ら飛ぶことを決意した仲間の意志をリスペクトし、「沙羅が飛ぶなら」と次々と自分のベストを尽くしていくチームメイトの姿。自責の念に押しつぶされている同志の肩をやさしく抱き寄せ、自分のビックジャンプで仲間を支えるエースの小林陵侷選手の姿にも、心の底から拍手を送りたいと感動しました。

これから、みなさんが歩んでいく人生の主演はみなさん自身です。「自分の人生に責任が持てるのは自分だけだ」と気づき、覚悟し、人任せにしない生き方ができるように。今、立志を迎えたこの機会に、新たに決意したことを、みなさんそれぞれのこれからにつなげ、ぜひ、新しい時代を担っていく力をつけ、将来、幸せに生き抜いてほしいと願っています。自分がどうしたいのかを大事にして、自分の人生を納得できるものにしてください。

「なりたい自分を持ちながら、挑戦を楽しむ！」

先日、現在北京オリンピックに出場中のスピードスケートの小平奈緒選手が北京に挑む前に、柔道の金メダリスト大野将平選手と対談していたときに、最後を締めくくった言葉です。「なりたい自分を持ちながら、挑戦を楽しむ！」あの選手でさえも、まだその域には達していないと言った言葉ですが、14歳のみなさんなら

「なりたい自分をつくりながら、挑戦を楽しむ！」でしょうか。

今日は、みなさんと一緒に人生の節目となるこの時間を共有できることを、とても嬉しく思います。

みなさんの力で、素敵な「立志の集い」を、創り上げてください。